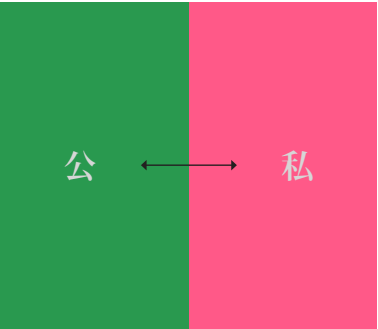


Room B



先行研究

日本慣習の レファレンス

ナンド
—
家の最奥部に位置し、寝室や収納スペースとして利用されるとともに、儀式的な空間としての役割もになった。特に神棚や仏壇が配置されることで、家族や共同体の信仰や伝統を象徴する場として機能した。ナンは格式の違う家の中でも、祀る場所と構造は共通であり普遍である。現代ではナンドが消え、儀式が外部に出てしまっていることにより住居が機械的で人間らしいさを失ったものとなっている。単なる物理的な空間以上の意味を持っている。

森岡 昇：住まいの文化論—構造と実感をさぐる、梓出版社、2012、pp.84-104
土居 孝：高級住宅における神の存在と一室の中心位置—京都府の歴史と建築の発展について—（小特集 高級住宅をめぐって—ワタタケの全貌と神道の成立—）、人文學報、113 91-105、2019 年 4 月
クワン・アサヒト：建てるために生きるのか、それとも、生きるために建てるのか、日本の現代住宅 1970 年代 A.D.A EDITA Tokyo.1978
黒島 功博ら：はるか昔、日本の住宅空間における儀式性、住居研究論文集・実践研究報告集、46(0)、pp.97-108、2020 年

西洋文化の レファレンス

ブドワール
—
館の奥まった場所にある。ブドワールはすてひきこもる、という意味があり、意味をなす場所ではない。薄暗く、ひっそりとしている。宮殿の女性たちがファッションドールを集め、自分とおそいの服を着させて並べたりと体の延長、発散を行う。設えにはロココ様式の家具や装飾が取り入れられ、柔らかな光が空間を満たすことで、居住者にリラックスと安心感を与えた。また、「ブドワール」は自己表現の場としても機能し、上流階級の女性が社会的規範から一時的に解放される場であった。このような空間は、当時の社会的背景やジェンダー規範を反映しつつ、個人の生活を豊かにする重要な役割を果たしていた。

山口典里子（典里子）：ブドワールの区別する身体・壁に包まれた時、言語文化論集、56 51-96、2001-03-28



今和次郎『日本の民家』



ブドワールの絵画 アントワニス・ヴァントー『化粧』



アドルフ・ロース ミュラー邸 購入談話室

櫻井 敬夫：「特撮」アドルフ・ロース「住宅」『a+a 372 号』株式会社エー・アンド・エー、2014 年
斉藤 一徳：「アドルフ・ロースの建築における『空間の運動性』」、『ヴァルター・ベアツェンが受けたロースの教養的習得』pp.49-79、2023 年 7 月
伊藤 哲夫：「アドルフ・ロース」、『SD 建築 165、建築出版会、1989 年、247p
森岡 昇：「アドルフ・ロースの建築空間、設計とその発展をめぐって」、『人間と環境学』第 26 巻 pp.119-130、2017 年
森岡 昇：「アドルフ・ロース」、『建築と空間』、『アール・ブリコラ』の建築理念を中心として』、美術、第 63 巻 pp.61-72、2012 年

建築のレファレンス

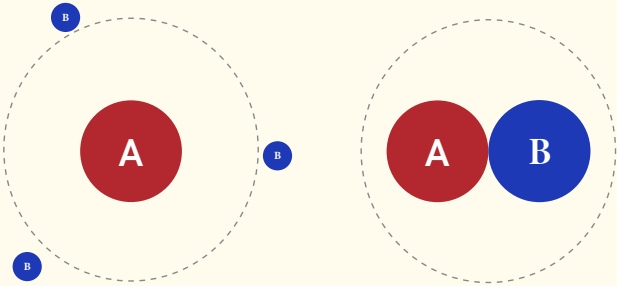
アドルフ・ロースのアルコーヴ

“部屋の周辺部に連心的に家族生活のいくつかの場が形成されることは気安い住み心地をつくる。それはさらに設えた私的な部屋になりうるからだ。曖昧なエピソードが満たされていく。”
このようにロースは機能主義の建築家でありながら、住空間において私的で名状しがたい中間的な空間を重視した。アルコーヴは、公的空間と私的空間をつなぐ緩衝地帯として設計され、居住者に心理的な安心感を提供するだけでなく、空間に物語性や情緒をもたらす場として機能した。天井が低く抑えられたアルコーヴは、居住者に身体的な包容感を提供し、他者からの視線を遮断することで、真に私的な空間を形成していることが明らかとなった。
このような空間は、現代の住空間において失われたつある「安心感」と「自由」を再認識させるものである。

プライベート空間の 歴史参照

これらの空間は、それぞれ異なる文化的背景や社会的条件に基づいて形成されているが、共通して居住者に精神的な安定や充足感を提供する場としての役割を担っている。さらに、これらの歴史的事例と現代住居を比較した結果、現代住居においてはプライベート空間がほとんど見られず、機能性や経済性が重視される一方で、居住者の精神的な豊かさが軽視されていることが指摘された。特に、家族が互いに干渉しすぎず、それぞれの空間を尊重する仕組みが欠如していることが、家族が住まう現代住居の課題として浮き彫りになると考えた。

家族で住まうことを考える



理想的な家族

親子や夫婦が支え合い、助け合うような通常の家族像だろう。一般的にこうあるべきとされるものがある。
これを家族観の A 面とする。

個人の表現を守る

しかし家族は A 面だけではない。一緒に住まうときストレスやプレッシャーは感じるものである。個人の価値観や思想、細かい行動が相手に刺激を与える時がある。それはプライバシーの欠如からくるものである。互いのテリトリーを刺激し合うためにプレッシャーになるものだ。これを見る限り、プライバシーを重要視するべきである。
この B 面的要素を拾い上げて、家族観は変化していくべきだ。

B 面も重要である

現代見られる住居形態は A 面のみが反映されたものなのではないかと仮定する。パブリックとプライベートのみの構成は、団らんが安易にでき、家族だからと無意識に相手のテリトリーに介入できるものだする。それはプライバシーを守り切れていない。**私が住む集合住宅の改修にてこの忘れ去られた B 面を含め住空間を再構成する**

建築に捉えなおす

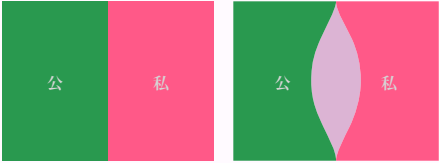
		名がある	名がない
家族観	普通の言葉	理想像	個人の表現を守りたい
	私の言葉	A 面	B 面
建築	一般的空間 A		ブドワールの空間 B

共存させる

名がない空間を表層化

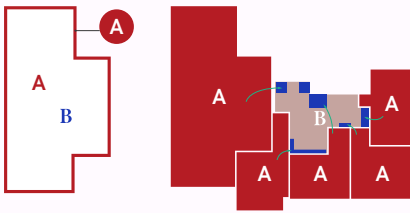
理想的な家族と、個人の表現、すなわちプライバシーを損害されないよう守りたいという願いがある。私はそれぞれを A 面と B 面と置き換えながら、さらにこれを建築に捉え直した。前者は名前がある。リビングやキッチン、母の部屋などがそれにあたり**一般的空間 A とする**。
後者は個人それぞれによる空間である。一概に名前をつけられない。これを中世ヨーロッパで見られた収納、アルコーヴのようなプライベート空間であるブドワールを例えにし、**ブドワールの空間 B とする**。

Room B 廊下を B 的に変換



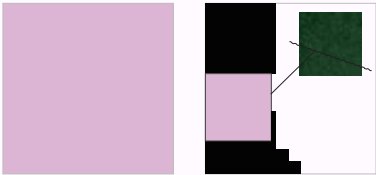
公 (外) と私 (内) の中間

緩衝空間にもなりえる。厳密な家族の集まりを行いたくないが、他者の存在を得たいがためのものになる。公でも私でもない曖昧さによって様々な物語を満す。



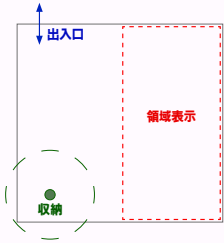
収納の点在

LDK と個人の部屋の間にいることからそこで収納を点在させ、部屋たちから溢れたモノたちをこの RoomB が A と B を結ぶことができる。



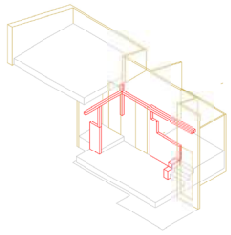
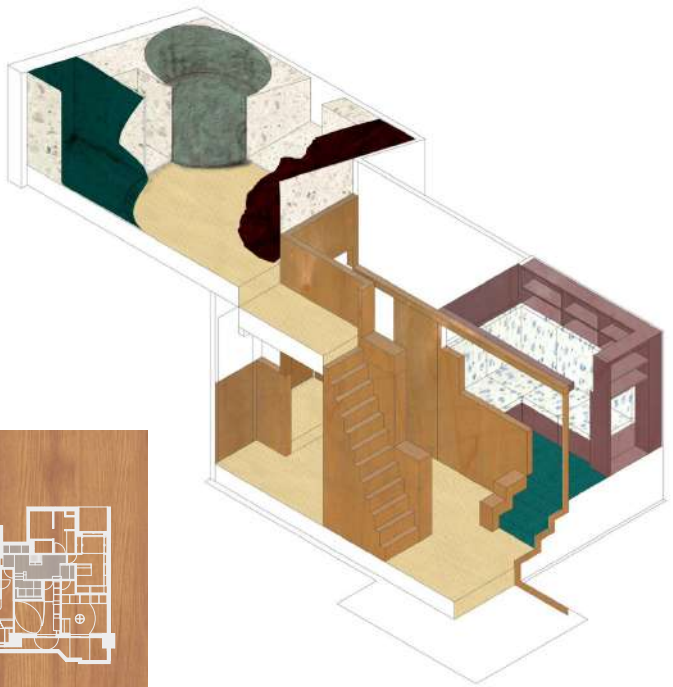
包容感

身を隠すような空間となり、それは他者を排除してくれる。そして他者にそれを示さない。プライバシー性が高まり、安らぎをもたらす。アルコーヴや屋根裏には布を多用し、ラグジュアリーにする。

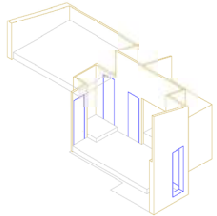


空間 B をつくる 3つのルール

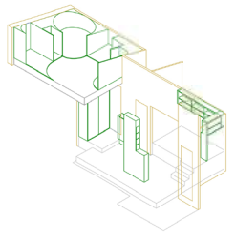
B 面のエリアをつくるための 3つのルールを与えた。領域表示と出入口、収納の造りを工夫づけることにした。これらは部屋の中でもテリトリーを示すポイントとなり、ブドワールの空間を演出する。個人の部屋、LDK でも適応する。



領域表示
柱梁
…全体に温かみのある木が B を強調される



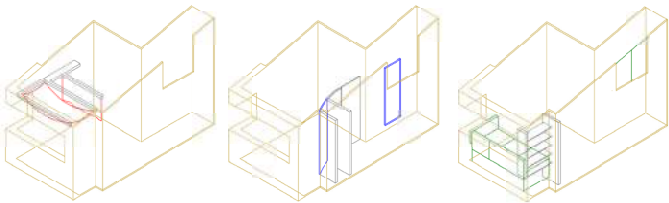
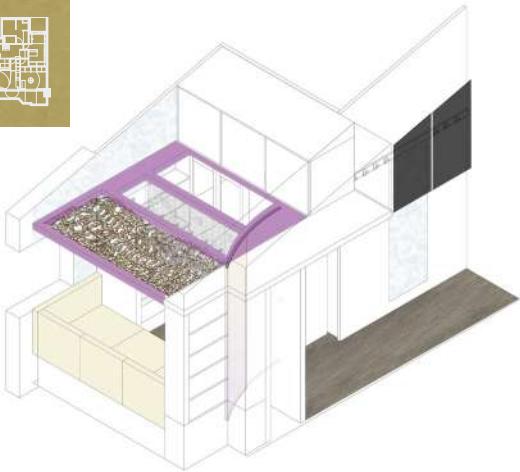
出入口
リビング側の黒い戸、個人の部屋に続く存在感のない戸
…リビング側にやわらかい緊張感を与える。個人の部屋への存在感を隠す。



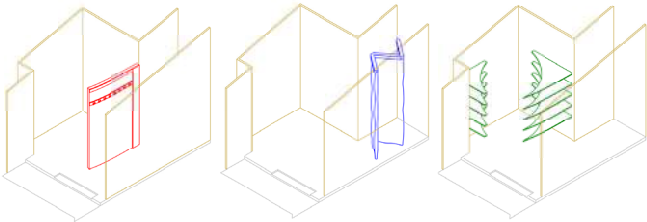
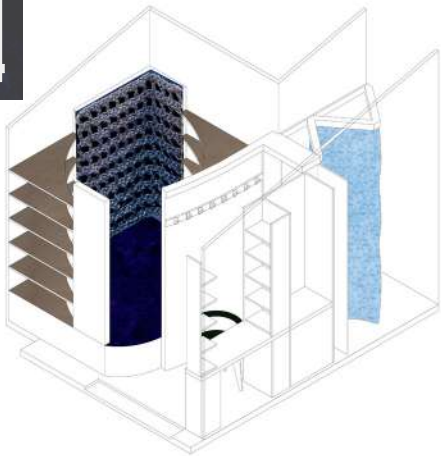
収納
点在させる
…家族のモノをしまおう



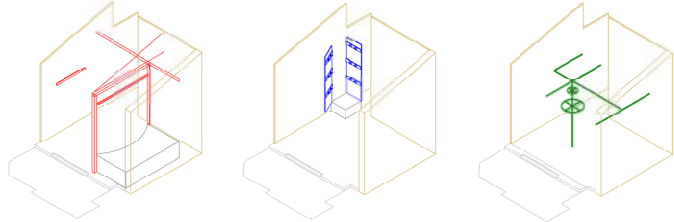
個人の部屋、LDK



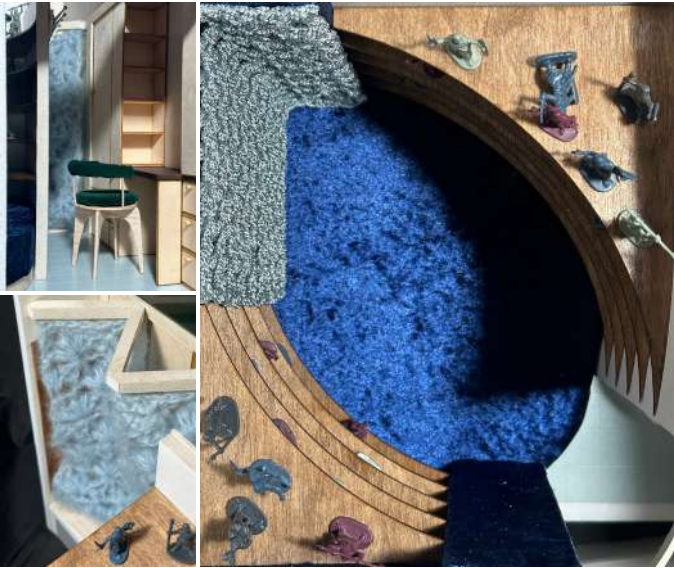
- 領域表示**
カーテンと吊るした編み物
…半透明で曖昧な表示を三次元的に行う
- 出入口**
アールの引き戸
…奥まった場所だと強調する
- 収納**
ベッド下と屋根裏収納
…自分でさえ見えない

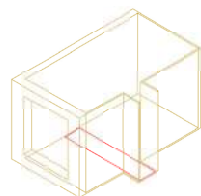
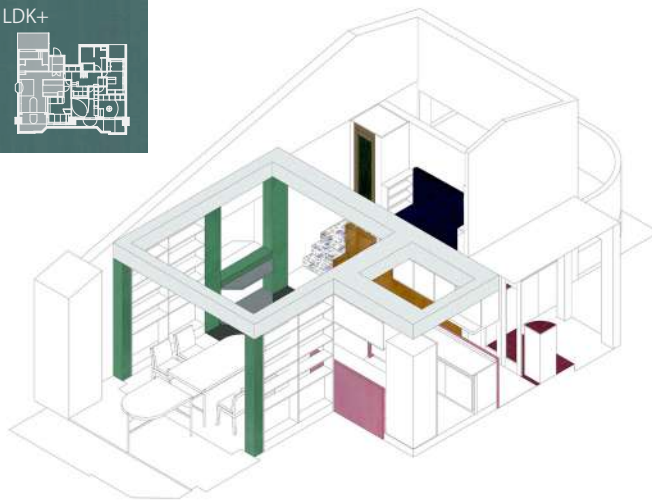
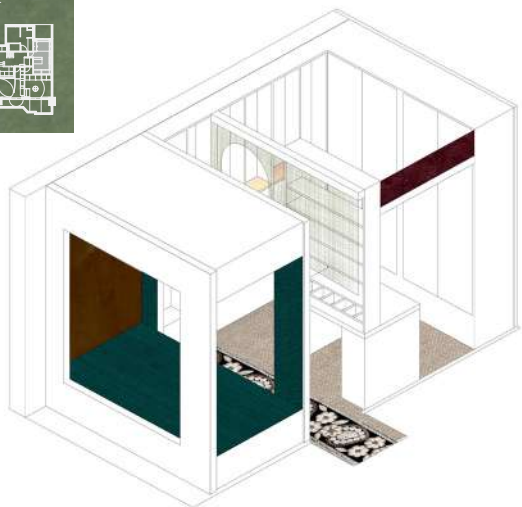


- 領域表示**
アール壁
…ベッドルームにて、強い隠しをする
また、中の壁のペロアと編み物がB的にする。
- 出入口**
ジグザグ入る毛糸
…段階的な移動
- 収納**
ベッドを囲む棚とペロアと編み物
…収集物に囲まれる

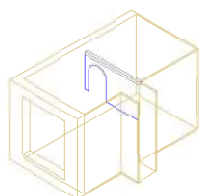


- 領域表示**
赤い柱梁、壁のペロア
…部屋全体が収納の暗示、ペロアの表示は寝るための安らぎの場
- 出入口**
2回扉を開ける
…クローゼットの中を通る
- 収納**
ハンガーラック
…服だらけの部屋に

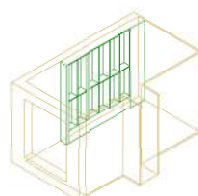




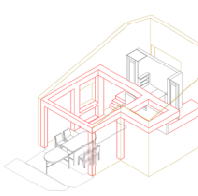
領域表示
床の細長い刺繍
…寝る空間と趣味空間を分ける



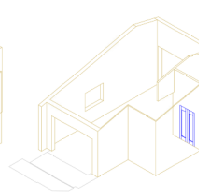
出入口
半透明なアーチ
…寝る空間と趣味空間を目線にて少しだけ分ける



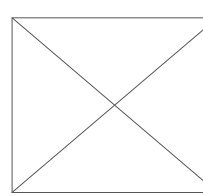
収納
縦収納
…縦にモノを積んでいく本人の特徴



領域表示
暖炉、レベル上げたアルコーヴ
…団らんの中心表示、団らんから少し離れる



出入口
両開き扉
…内外の領域を明瞭化



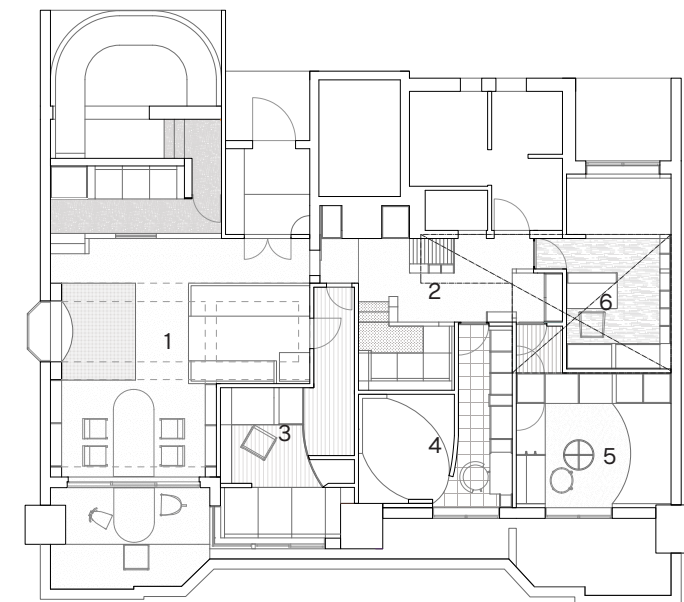
収納
無し…団らんの場所

集合住宅改修の意義



改修前平面図
1. リビング、和室
2. 廊下
3. ダイニング
4. 息子の部屋
5. 娘の部屋
6. 父の部屋

既存情報
物件種別 中古分譲マンション
間取り 4LDK
専有面積 95.43㎡
バルコニー 35.76㎡
建物構造 鉄筋コンクリート造



改修後平面図

1. LDK +
2. Room B
3. 母の部屋
4. 息子の部屋
5. 娘の部屋
6. 父の部屋

近代以後の住構成のベースとして核家族が住まう集合住宅を取り上げた。改修前と改修後の部屋構成を比べたとき、大きな変化はない。しかし、部屋それぞれにBの要素を膨らませていく。そうすると集合住宅は空間に余韻がないため、スケールがちくちくになっていく。スケールを超えてでも、安らかに住まうためにその家族、その人の空間を作り上げる。現代では忘れ去られた概念ではないだろうか。

